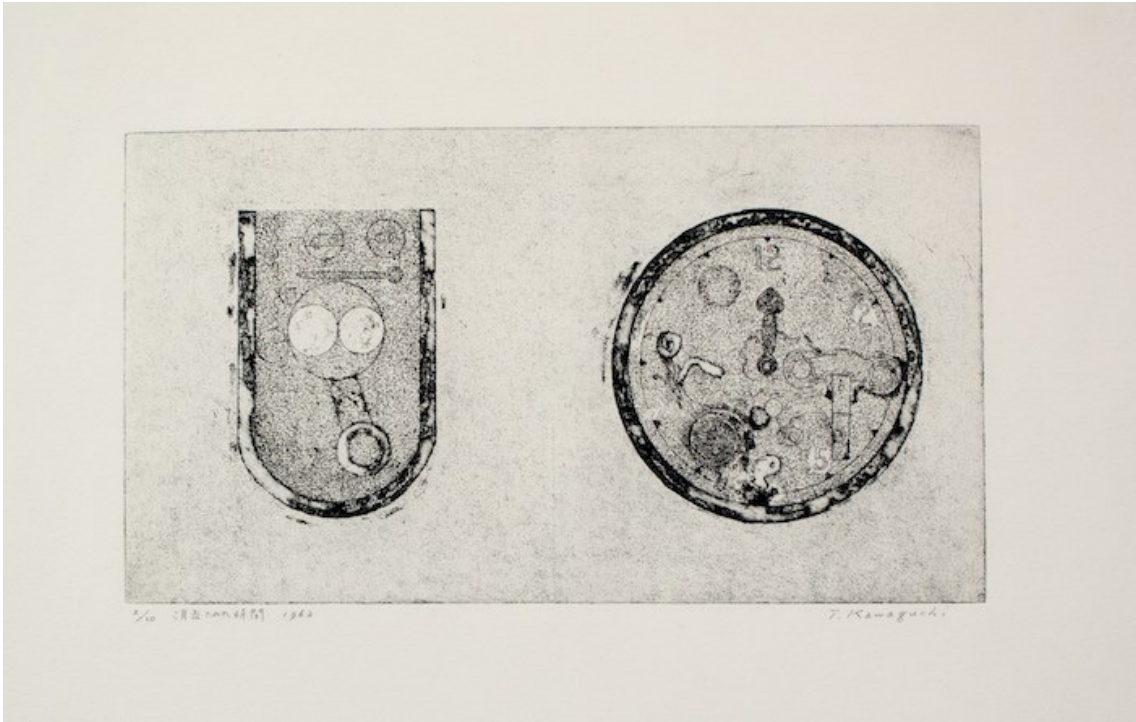


河口 龍夫  
” 1963年の銅版画より ”



「消去された時間」1963年 銅版画(エッチング)

会期:2018年12月14日(金) - 2019年1月26日(土) 13:00-19:00

\*日・月・火・祝日休廊(12月23日~1月8日は冬季休廊)

オープニングレセプション:12月14日(金) 18:00 - 20:00

会場:SNOW Contemporary

## ■河川龍夫 個展「1963 年の銅版画より」のご案内

---

SNOW Contemporary では 2018 年 12 月 14 日(金)から 1 月 26 日(土)まで、河川龍夫の個展「1963 年の銅版画より」を開催いたします。

本展では、近年になって見つかった、今から半世紀以上前の 1963 年、当時 23 歳の河川龍夫が制作した銅版画 10 点を発表する予定です。1963 年は、河川の最初期の活動として知られる「グループ〈位〉」結成の 2 年前にあたります。「グループ〈位〉」では 岐阜・長良川の河原で延々と穴を掘って埋めるパフォーマンスを発表するなど、当時の活動は、現在の幅広い河川の芸術活動を展開する契機となった時期でもありました。

銅版画作品それぞれに付けられた「消去された時間」「人」「萌芽」「仮面」「発生」「相関」「命の時間」「曖昧なこと」「闇に潜む浮遊物」「闇からの誕生」という端的なタイトルからだけでも、すでに現在の河川作品に通底する「時間」「生命」「宇宙」といった要素が伺え、作家としてスタートした頃から変わらない強固な制作への意志を受け取れます。

制作から 55 年の時を経て本作を見つけた時、河川は以下のように自問しています。

「これらの作品を制作したのは何故だろうか。自問自答の機会が訪れたのかもしれない。しかし、1963 年の作品を制作当時の 23 歳の言葉で語ることは失われた覚書を探すようであり、<sup>かつかせうよう</sup>隔靴搔痒の感がある。何故なら、最初の文の繰り返しになるが、『時間の非可逆性は過去の現実への非可逆性と重複するかのようである。』からである。」(「1963 年の銅版画をめぐって」より)

河川龍夫の芸術家としての最初期に制作された 10 点の銅版画をご覧いただける貴重な機会となりますので、皆さまのご来場を心よりお待ち申し上げます。

## ■河川龍夫 / アーティストステートメント —『1963 年の四点の銅版画をめぐって』より抜粋

---

### 1. 消去された時間

時間への何らかの関心が感じられる過去の作品で、私の手元にあるものを探してみた。すると 1963 年に制作した銅版画の作品で、題名が《消去された時間》となっており、その題名からも時間への関心が明らかであった。

そこに描かれているのは、時間そのものは描くことができないので、時計を借りた時間のイメージであった。当然のことながら、時間そのものを対象化することは、時間内存在である我々には不可能であることを自覚していたようである。その時点では時間への表現力が稚拙にも思えるが、私にとっては時間への関心とささやかな冒険を示す、そして懐かしさを誘う作品でもあった。

懐かしさを誘うのは、描かれている時計が、誕生した時から我が家にあった古い柱時計からのイメージであったからだ。記憶に残るその時計は振り子時計で毎日軽快な音を立てながら時を刻んでいた。

またその時計はゼンマイ仕掛けによる機械時計で、大きな真鍮の鍵状の道具を丸い小さな穴に差し込み手でねじを巻かなければならなかった。その柱時計にねじを巻く役が父から私の役になった時から、ねじを巻くたびに時計に命を与えるような気分になっていた。ねじを巻く音と時刻を知らせる音が思い出される。時刻を知らせる音は、一時にはボーンと一つなり、十二時にはボーン、ボーンと連続して十二回なった。

音を失った《消去された時間》から読み取れるのは、画面に向かって右側に時刻を知らせる文字盤部分が描かれ、左側には時計を起動させる振り子部分が描かれている。だが記憶に残る時計は、時刻を表記する文字盤と時計の短針と長針を起動させる振り子が完全につながって一体化し、柱を背にして時を刻んでいた。なぜ振り子時計を切断し左右に隔てたのであろうか。それは文字盤の画面に時計を巻く鍵が描かれていることから推測すると、時計のねじを巻き忘れ、時計が静止してしまったことの記憶からであろうか。あるいは、切れ目なく連続する時間に、現実時間とは無関係な隙間のような時間空間を想像し、そのために時間の切断を試み、切断された時間の存在を消去された時間と夢想したのだろうか。もしくは、同じ長さの時間が長く感じたり短く感じたりすることが、私的な観念によってとらえる時間と即物的な時間との乖離を時間の切断と捉えようとしたのだろうか。いずれにしても時間の非可逆性は過去の現実への非可逆性と重複するかのようである。

ここに書かれている作品《消去された時間》を探し出した時、同時に三点の別の作品を見つけ出した。いずれの作品も1963年制作の銅版画で、私が23歳の時の作品である。作品の題名はすでに記述した《消去された時間》の他、《人》、《萌芽》、《仮面》と画面下に書かれていた。作品と再会した一瞬、題名も含めてまるで水族館の水槽越しに不動の魚を見るような、または、自分が昔採集した珍しい昆虫を標本箱越しに見るような、あるいは、時間の残滓で少し霞んだ曇りガラスを通して見るような感じを覚えたのは、55年前という経過した時間のせいであったからであろうか。

(注)この文を書いた二ヶ月後、新たに55年前の銅版画6点が見つかりました。

## ■河川龍夫 略歴

---

1940 兵庫県神戸市生まれ  
1962 多摩美術大学絵画科卒業  
1965 グループ「位」結成  
1983 筑波大学芸術学系助教授(1991年同教授)  
2003 筑波大学を定年退官、京都造形芸術大学大学院教授、  
2004 筑波大学芸術学系名誉教授、倉敷芸術科学大学教授  
現在、金沢美術工芸大学 教授

## ■主な個展

1981 「河川龍夫展」アート・フロント・ギャラリー (東京)  
1984 「河川龍夫」寛勲美術館 (ソウル)  
「青」雅陶堂ギャラリー竹芝 (東京)

- 1986 「今日の作家シリーズ 河川龍夫展」大阪府立現代美術センター
- 1989 「関係—種子・農園」ヒルサイド・ギャラリー（東京）
- 1990 「今日の作家たち Today's Artists III-'90」神奈川県立近代美術館
- 1991 「関係—植物」横田茂ギャラリー（東京）
- 1997 「関係—河川龍夫」千葉市美術館
- 1998 「河川龍夫—封印された時間」水戸芸術館現代美術ギャラリー  
「呼吸する視線 河川龍夫 みえないものとの対話」いわき市立美術館
- 1999 「河川龍夫—関係・京都」京都市美術館
- 2000 「河川龍夫 関係—種子・生命」横田茂ギャラリー（東京）
- 2003 「河川龍夫 大地と水と植物」ヒルサイド・フォーラム（東京）  
「日本現代美術 河川龍夫」釜山市立美術館（韓国）
- 2004 「河川龍夫:関係—時のフロッタージュ」名古屋市美術館
- 2005 「時間の時間 河川龍夫展」国際芸術センター青森  
「河川龍夫 関係—本」横田茂ギャラリー（東京）
- 2007 「河川龍夫 見えないものと見えるもの」兵庫県立美術館 名古屋市美術館同時開催
- 2008 「無限への立ち位置—河川龍夫の1970年代」宇都宮美術館（栃木）  
〈see saw seen 1973〉横田茂ギャラリー（東京）  
「DARK BOX 2008—時間をもった闇」名古屋市美術館（愛知）
- 2009 「河川龍夫展 言葉・時間・生命」東京国立近代美術館（東京）
- 2010 「河川龍夫 螺旋の時」加計美術館（岡山）
- 2011 「November 2011 河川龍夫」横田茂ギャラリー（東京）
- 2012 「光あれ！河川龍夫—3.11以後の世界から」いわき市立美術館（福島）
- 2013 〈闇のなかで そして 光のなかで〉横田茂ギャラリー（東京）
- 2014 「河川龍夫 真珠になった種子 音になった種子」ギャラリー門馬（札幌）
- 2015 「河川 龍夫展」横田 茂ギャラリー（東京）  
「河川 龍夫 垂直の時間、あるいは階段時間」SNOW Contemporary(東京)  
「河川 龍夫 原稿用紙、本の中に」NADiff a/p/a/r/t(東京)  
「河川 龍夫 闇の時間」カスヤの森現代美術館(神奈川)  
「「発芽までの待つ時間」山鬼文庫(石川)  
「シーラカンズ近く」シーラカンズ 毛利武士郎記念館(富山)
- 2017 「アートドキュメント2017 河川龍夫展」金津創作の森(福井)  
「河川龍夫 垂直の音 と 階段時間」ギャラリー門馬(北海道)  
「Tatsuo Kawaguchi」Kayne Griffin Corcoran (Los Angeles, USA)
- 2018 「河川龍夫 時間の質 あるいは 関係—時間」横田茂ギャラリー(東京)  
「関係—鉛の郵便」SNOW Contemporary(東京)  
「河川龍夫 - ちのこうや」黒部市美術館(富山)

#### ■主なグループ展

- 1965 「グループ<位>展」神戸国際会館ギャラリー、  
「アンデパンダン・アート・フェスティバル 現代美術の祭典」長良川
- 1970 「東京ビエンナーレ1970 人間と物質」東京都美術館 京都市美術館
- 1973 「第8回パリ・ビエンナーレ」パリ国立近代美術館 パリ市立美術館  
「第12回サンパウロ・ビエンナーレ」サンパウロ美術館
- 1986 「前衛芸術の日本」ポンピドゥー・センター
- 1989 「大地の魔術師」ポンピドゥー・センター
- 1994 「1945年以降の日本の美術」グッゲンハイム美術館他巡回
- 2000 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000」新潟

- 2002 「大分現代美術2002 アート循環系サイト」大分市美術館  
「美術のカー時代を拓く7作家」兵庫県立美術館
- 2003 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2003」新潟県
- 2004 「再考 近代日本の絵画 美意識の形成と展開」東京都現代美術館  
「痕跡—戦後美術における身体と思考」京都国立近代美術館 東京を巡回  
「グループ<位>展」兵庫県立美術館
- 2005 「東京府美術館の時代 1926—1970」東京都美術館
- 2007 「美術のおくりもの」富山県立近代美術館  
「水のかたち」茨城県近代美術館
- 2009 「日本海政令市にいがた 水と土の芸術祭 2009」新潟市  
「水都大阪2009」大阪市  
「現在美術も楽勝よ。」水戸芸術館現代美術ギャラリー  
「眼をとじて—“見ること”の現在」茨城県近代美術館
- 2010 「瀬戸内国際芸術祭2010」小豆島(香川)  
「岡山・美の回廊」岡山県立美術館
- 2011 「これは本ではない—ブック・アートの広がり」うらわ美術館
- 2012 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012」新潟県
- 2013 「二年後。自然と芸術、そしてレクイエム」茨城県近代美術館
- 2015 「Re: play 1972/2015 -「映像表現 ’72」展、再演」国立近代美術館
- 2017 「奥能登国際芸術祭」石川県珠洲市 飯田地区  
「ヒックリコ ガックリコ ことばの生まれる場所」アーツ前橋・前橋文学館(群馬)

#### ■主な受賞

- 1974 第一回井植文化賞(文化芸術部門)受賞  
2008 第15回日本現代芸術振興賞受賞  
2017 第58回毎日芸術賞受賞

■お問い合わせ 本展の広報にご協力賜りたくお願い申し上げます。

---

#### SNOW Contemporary

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

tel & fax : 03 6427 2511

mail : snow@officekubota.com

HP : <http://snowcontemporary.com>

担当:石水美冬(いしみず みふゆ)